

全国地産地消推進協議会 会長賞

農事組合法人 うりぼう（三重県いなべ市（いなべし））

～若手農業者や女性・高齢者が活躍することで、地域農業を活性化～

組織概要

○代表者 日紫喜 淳 ○所在地 三重県いなべ市 ○活動開始年 平成16年
○構成員 生産者178名・消費者136,000名・小学生等6,000名



受賞のポイント

- 組合員の栽培技術向上のため「うりぼう塾」を開設し、新品種の栽培指導等を行い、少量多品目生産の生産体制の構築を図ることで地域内の遊休農地の解消に貢献。
- 専業農家による「うりぼう若手交流会」がイベント、食育活動、情報発信などで活発に活動。
- 本格的な野菜作りをしたいと考えている市民向けに「チャレンジ農園」を開設し、「うりぼう」が農地と資材を準備して栽培指導を行うとともに、栽培した農産物は「うりぼう」で販売することで、将来農業に取り組む人材を育成。

取組内容

■取組みの経緯・成長の契機

- ◆平成元年に会員30名で朝市「うりぼう」を開設したが、早朝販売や精算業務が煩雑で徐々に規模が縮小。そこで「朝市うりぼうを考える会」を立ち上げ、新たな運営のあり方を模索。平成16年に「農事組合法人うりぼう」を設立し、地域に新設される駅に隣接する形で**直売所「ふれあいの駅うりぼう」を開設。運営要領を定め、出荷方法や精算に関する規則を作り継続的に運営できる組織体制を作る。**
- ◆出荷する**組合員の栽培技術の向上のため「うりぼう塾」**を開き、農業資材会社や農業改良普及センターなどの協力を得て、組合員のほ場を巡回し、既存品目及び**新品種の栽培指導等を行い少量多品目の生産体制を構築**してきた。

■取組みの特徴・活動の強み

- ◆178名の組合員が役員、運営委員、品質委員などの役割を担い、組合員が「自分の店」という意識を持ち、運営等に関わっている。
- ◆組合員が小学校の総合学習や高校の食育関連講座に参加し、子ども達に地域の農業や郷土食などについて教えている。また、**若手専業農家12名による「うりぼう若手交流会」**を立ち上げ、地元の行政、郵便局、製麺業者、印刷会社など**異業種メンバーと一緒に農業振興や地域の活性化について活発な勉強会を行うとともに食の対決イベント等の開催、芋掘りなどの食育活動、SNSなどで情報発信を実施。**
- ◆平成24年に農業初心者向けの「チャレンジ農園」(3,000㎡・25区画)を開設。「うりぼう」が種・苗・農具・肥料を準備し、栽培指導を行うとともに、栽培した農産物は「うりぼう」で販売することで、将来農業に取り組む人材を育成。

■地域への貢献・波及効果

- ◆常設直売所を開設し、栽培指導を合わせて行うことで、**少量多品目の生産が進み、地域の小規模農地が有効利用され、生産量が拡大**している。また、**若手農業者が中心となり、地域の関係者とイベントを開催することで、地域住民の交流が深まり、地域活性化に繋がっている。**